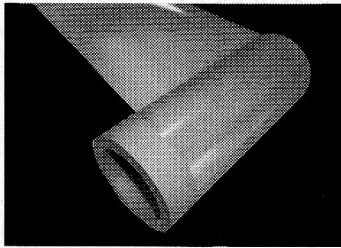


# 水を付けると粘着性発揮

## 日本紙管が新方式を開発

日本紙管工業（本社・大阪市）はこのほど、紙管表面に水を付けると粘着性を発揮する「タックハイコアー」を新発売した。



紙管はフィルムや紙を巻き取る際の芯として多用される。従来、紙管にフィルムや紙を巻くために、紙管表面に両面テープを貼り付けるのが普通だった。

両面テープはそれほど厚みのあるものではないが、紙管の表面に貼り付けると僅かな段差を生じ、巻き付けるフィルムや紙に段差痕が付く問題があった。

これを解決したのが「タックハイコアー」で、見た目は通常の紙管だが、表面

の必要な個所に水を塗布するとその部分に粘着性が出て、フィルムや紙の端部を貼り付けることができる。

両面テープを使わないため、テープを貼り付ける必要がなく、剥離紙などのゴミも発生しない。

通常、紙管は渦巻き状のスパイラル巻きで製造され、紙の厚みが表面に残るため、それがフィルムや紙を巻きつける際の段差痕となった。これを研磨などの表面加工で取り去り、ほぼ完全に平滑にしたのがシームレス（継ぎ目なし）紙管である。

日本紙管工業の表面に水を付けると粘着性を発揮する新製品は、スパイラル巻きの段差の残るものが「タックハイコアー」、シームレス紙管に表面加工したものが「タックハイコアー」と命名されている。